

衝突!

-- それが役立つ時?

- カリン・フィリップス



「チームワークの相乗効果」一すなわち、複数の人あるいは物事が共に働くことによって、個々の効果や能力の合計を上回る成果を得ることが注目を集めています。

みな才能を出しあって共に働くなら、より多くのアイデアが出て、努力が重ね合わされ、より良い結果が得られることから、2プラス2は4とは限らず、チームワークで働けば6にも8にもなったりするということです。

しかし最近、私は「相乗効果」の別の面に気づきました。成功するチームになるには、衝突もいくらか必要であることを発見したのです。性格や考え方や才能など、似た者同士でチームが成り立っているなら、穏やかな海を航海するかのごとく、順風満帆に進んでいくものと考えられるでしょうが、共にうまく働くというのは必ずしも、そうやってすべてスムーズに行くことを指すわけではありません。

ゴールを達成するチームというのは、様々なアイデア、さらには相反したアイデアが飛び交い、問題に対するアプローチも人それぞれ異なる中で、そこから生じる葛藤が、チームを前進させる力となるのです。

もちろん、それも行き過ぎは良くないですが、チームの各メンバーが心から他のメンバーを尊敬しているならば、良いバランスを保てることでしょう。

各メンバーが様々な形でチームに貢献していることを感謝し、各自が心をオープンにしてあらゆるアイデアを考慮し、最終的に誰のアイデアが採用されたかを問題にしたりしなくなるなら、その時にこそ、革新と進歩の期が熟したと言えます。

以前にあるチームで働いた時、相容れないアイデアやニーズがあったことから、対立や緊迫感が生じました。しかし、自分の意見が通るかどうよりも、共にうまく働いていくことに重きを置いたので、互い同士の相違点に阻止されることなく、最終的には違いを乗り越えることができました。そこに到る道のは容易ではありませんでしたが、良い結果が得られました。

私は人と衝突すると、きっと何か大きな問題があるからに違いないと考えて、すぐに落胆してしまう性格ですが、やはり自分の考えがあるので、人からどうしろとか、どう考えるべきだと言われるのは好きではありません。そして、このような

“

共に集まることは、始まり

共に居続けることは、進歩

共に働き続けることは、成功

— ヘンリー・フォード

”

感情は、もう既に難しい状況をさらに複雑にしてしまいます。

ですから、衝突を、ゴールに到達する過程で欠かせないものの一つとして見るのは、私にとって大きな突破口となりました。そういう見方をすると、他の人と意見が異なる時にも、自分の考えを恐れることなく話すことができ、さらに反対意見を受け入れることもより簡単になりました。

チームワークの相乗効果を上げるには、努力を要するし、火花が飛び散ることもあります。でも、それを乗り越えるなら、それだけの価値のある結果が得られます。ケネス・ブランチャードが言ったように、「私たちの内、誰一人として、全員を合わせたほど賢い者はいない」のです。